

Point 3

子どもの成長を支える環境づくりの視点

視点 1

体験の内容
どのような体験をさせるのか?

視点 2

体験の時期
いつ体験させるのか?

視点 3

体験の質
どのように体験させるのか?

視点 4

体験を通じた人とのかかわり
体験を通してどのように関わるのか?

子どもの成長を支える環境づくりを考える際、それは子どもたちが夢中になって取り組める活動なのか、それで子どもたちが心を動かされるような体験（楽しい、うれしい、感動、つらい、くやしい、負けたくない等）ができるのか、そのことを通じて子どもたちがどういった気づきや学びが得られるのかなど、**体験の質**に目を向けることが大切です。

質の高い体験をさせるためには、子どもに体験をただ「やらせる」のではなく、「やろう」という気持ちを引き出すことが必要です。**主体的な学び**ほど、子どもの成長にとって大きな糧になるものはありません。そうした主体的な学びの姿勢を促すためには、体験を通じて何かを「教える（伝える）」よりも、「分かる（気づく）」ことができる機会を設けることが大切です。自分の力で得た学びは、教えられて得た学びに比べ、喜びや充実感も大きく、さらに知りたい、学びたいという意欲を喚起することにもつながります。

また、**子どもの成長を支える環境**では、親や先生、近所の人といった大人とのかかわりも重要な要素の一つになります。そのため、子どものまわりにいる大人は、子どもたちに体験の場や機会を提供するだけでなく、温かく見守りつつも、様々な体験を通じて子どもを褒めたり、励ましたり、悩みを聞いたり、時には叱ったりしながらうまく関わり合いをもつようにし、心の成長を促す働きかけを積極的にやっていくことも必要になります。

今後、子どもの成長を支える環境づくりを考える際は、どの時期に、どういった体験をさせるのかということだけではなく、どのように体験させるのか、体験を通じて大人がどう関わるのかといった**体験の質**や**体験を通じたかかわり**についても目を向けることが大切です。



体験・遊びナビゲーター



体験・遊びナビゲーター

「遊び」「冒険」「挑戦」してみたいくなるようなたくさんの活動を紹介します。



体験・遊び2ナビゲーター

体験活動を安全に実践するための準備ややり方、注意するポイント、ちょっとしたコツまで紹介!



体験・遊び3ナビゲーター

就学前の幼児とその親子がいつでも簡単に、楽しみながら体力や運動機能を高められる遊びを紹介!



みなさんは自然の中でたくさん遊んでいるかな？
体験活動が楽しくなる情報が満載!

インターネットでも見ることができます!

<https://www.niye.go.jp/navi/>



体験・遊びナビゲーター検索サイト



青少年教育研究センターではYouTubeも配信しています!
<https://www.youtube.com/channel/UCsfCbGMu2WZYc5KcXtprN0g>



YouTube 検索サイト



ホームページによる情報提供

全国の青少年教育関係施設の案内情報、当機構が発行した調査研究報告書やリーフレット等、当機構の教育事業等のプログラム、青少年教育に関する法令・答申・調査研究・統計等、青少年教育関係資料の書誌情報を掲載しています。

https://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/

調査研究報告書検索サイト



青少年の体験活動等の研究成果に関するお問合せは下記までご連絡ください。



私たち大人にできることは？

多様な体験を土台とした 子どもの成長を支える環境をつくること

将来、社会を生き抜く資質・能力を身につけた大人になるためには、子どもの頃から様々な活動に挑戦し、多様な経験を積み重ねていく必要があります。そのためには、周りにいる大人が、子どもの生活環境の中に意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていくことが大切になります。

Point 1

「多様な体験を土台とした子どもの成長」を支える環境とは？

青少年に対し、社会的自立に向けた健やかな成長を促していくためには、家庭や学校、地域といった様々な場面で発達段階に応じた多様な体験を提供し、それらの経験を通じて心身ともに健全な人間形成を支援していくことが大切です。

国立青少年教育振興機構では、「体験活動を通じ

た青少年の自立」を目指し、青少年が社会的に自立していくために必要な子どもの頃の体験や体験によってはぐまれる資質・能力の関係について調査研究を重ねてきました。そして、これまでの研究成果を基に、自立した大人へと成長する過程において大切になる子どもの頃の体験と、将来、社会を生き

抜くために必要となる資質・能力の関係を体系的に整理し、今後、子どもの生活環境の中に意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていく際の指標になるよう発達段階に応じた望ましい体験の在り方の枠組みとして「子どもの成長を支える20の体験」と「体験を通して育成したい12の資質・能力」を取りまとめました。

Point 2

“体験する”ということの考え方

子どもの頃に多様な体験をすることは、子どもの成長にとって大きな意味があります。しかし、いくら様々な体験をしても、ただ体験させられるだけでは得られる成果が少なかったり、意味を成さなかったりすることもあります。子どもの成長を支える体験として20の体験を示しましたが、これらの体験を子どもにさせれば、社会を生き抜くために必要な資質・能力が自然と身につくということではありません。

“体験する”ということとは、何かしらの活動（自然体験、遊び、学習等）や行為（人助けをする、けんかする等）を“すること”だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる感情（うれしい、感動、悲しい、悔しい等）や気づき（分かる、発見する等）、学び（理解する、できるようになる等）など、いわゆる体験の質に関わる部分も含まれています。また、“体験する”ということには、自らが動いたり働きかけたりする能動的な体験だけでなく、他者からの働きかけ（褒められる、叱られる等）など受動的な体験も含まれてきます。

つまり、“**体験する**”ということとは、何かしらの活動や行為を能動的又は受動的に行い、それを通じて得られる感情や気づき、学びを含んだ一連の流れを表しているといえます。そして、**こうした体験を通じて得られる感情や気づき、学びこそが、子どもの成長を促す大きな糧になると考えられているのです。**

多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境



人との かわり

自然体験

キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等

集団活動

子ども会、委員会、係、クラブ等

地域行事

祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント等

社会貢献

清掃活動、募金活動、慰問活動、環境保全活動、地域おこし、まちづくり等

職業体験

農林漁業体験、インターンシップ、職業体験型テーマパーク等

文化芸術体験

音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等

科学体験

科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング等

国際交流体験

国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ等

規則正しい生活

早寝、早起き、朝ごはん、洗面、歯磨き、入浴等

遊び

おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、滑り台、おままごと、ごっこ遊び等

お手伝い

買い物、料理、掃除、ゴミ出し、洗濯、くつ磨き等

家族行事

誕生日のお祝い、お墓参り、大掃除、季節行事等

運動・スポーツ

スポーツ少年団、スポーツクラブ、部活動等

読書

読み聞かせ、絵本、小説、まんが、新聞、雑誌等

動植物とのふれあい

生き物の飼育、植物の栽培、自然観察等

探究学習

調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自学自習等

家族*とのかわり

家族にほめられる、親に叱られる、親に勉強をみてもらう、家族と遊ぶ、親にしつけられる、親と将来の話をする、家族の看病をする、兄弟の世話をする等

先生*とのかわり

先生にほめられる、先生に叱られる、先生に相談する、先生に認められる、先生に仕事を任される、先生と遊ぶ等

友達*とのかわり

※同級生、先輩、後輩等
友達にほめられる、友達に注意される、友達から認められる、友達から尊敬される、友達と遊ぶ、友達とけんかする等

地域*の人とのかわり

※保護者や先生以外の大人等
地域の人にほめられる、地域の人に注意される、地域の人に相談する、地域の人に認められる、地域の人に遊んでもらう、地域の人に勉強をみてもらう等